

血液内科41 ELd

☆適応疾患名：多発性骨髄腫

← 1コース →

【1、2コース】

薬剤	標準投与量	投与法	投与スケジュール			
			1week	2week	3week	4week
エムプリシティ	10mg/kg	点滴静注	day1	day8	day15	day22
レブラミド	25mg/body	内服	day1～21			
デキサート	※33mg/body	点滴静注	day1	day8	day15	day22

※レナデックス(内服)の場合は40mg/body

【3コース以降】

薬剤	標準投与量	投与法	投与スケジュール			
			1week	2week	3week	4week
エムプリシティ	10mg/kg	点滴静注	day1		day15	
レブラミド	25mg/body	内服	day1～21			
デキサート	※33mg/body	点滴静注	day1	day8	day15	day22

※レナデックス(内服)の場合は40mg/body

エムプリシティ(エロツズマブ)：エムプリシティ点滴静注用300mg, 400mg

【血管外漏出時の組織侵襲：非炎症性薬剤】

レブラミド(レナリドミド)：レブラミドカプセル5mg

デキサート or レナデックス(デキサメタゾン)：デキサート注射液6.6mg or レナデックス錠4mg

プレメディケーション：エムプリシティ投与60分前に解熱鎮痛薬(カロナール500mg)を内服
同時に抗ヒスタミン薬(ポララミン)とH2受容体拮抗剤(ガスター)を静注

	day1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
エムプリシティ	●							●※						
レブラミド	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
デキサート or レナデックス	●							●						

	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
エムプリシティ	●							●※						
レブラミド	●	●	●	●	●	●	●	●						
デキサート or レナデックス	●							●						

※3コース以降はエムプリシティの day8, 22を省略

H29.3.30 作成

H31.1.10 改訂

R3.6.4 改訂

30mL/h の投与速度で点滴静注を開始し、患者の忍容性が良好な場合は患者の状態を観察しながら投与速度を上記のように段階的に上げることができる。(ただし投与速度は 300mL/h を超えないこと)

◎必ず 0.22 ミクロン以下のフィルターを用いて投与すること

【初回投与】

	本管	側管	
30分	生理食塩液 100mL	デキサート33mg 生理食塩液 100mL	← カロナール500mg 1T 内服 ポラミン注5mg 静注 ガスター注射液+生食20mL静注
1時間			
30分		エムプリシティ10mg/kg 生理食塩液 150~230mL (投与速度30mL/h)	※体重別投与量一覧を参照 (注射用水で溶解)
30分		(投与速度60mL/h)	
最後まで		(投与速度120mL/h)	

【2回目投与】

	本管	側管	
30分	生理食塩液 100mL	デキサート33mg 生理食塩液 100mL	← カロナール500mg 1T 内服 ポラミン注5mg 静注 ガスター注射液+生食20mL静注
1時間			
30分		エムプリシティ10mg/kg 生理食塩液 150~230mL (投与速度180mL/h)	※体重別投与量一覧を参照 (注射用水で溶解)
最後まで		(投与速度240mL/h)	

【3 及び 4 回目投与以降、(第 2 コース以降も含む)】

	本管	側管
30分	生理食塩液 100mL	デキサート33mg 生理食塩液 100mL
1時間		
最後まで		エムプリシティ10mg/kg 生理食塩液 150~230mL (投与速度300mL/h)

カロナール500mg 1T 内服
ポラミン注5mg 静注
ガスター注射液+生食20mL静注

※体重別投与量一覧を参照
(注射用水で溶解)

【エムプリシティ短縮投与】

※エムプリシティ2回目以降に infusion reaction が見られない場合に限り2コース目からデキサート、カロナール、ポラミン、ガスター投与後の 1 時間経過観察を省略することが可能